

平成 18 年 9 月 26 日 ブリーフィング説明内容

以下は、平成 18 年 9 月 26 日におこなったブリーフィングにおける弊社社長 細谷 英二による説明内容です。

【近畿大阪銀行のシステム更改について】

近畿大阪銀行はシステムが老朽化しており、改修の方向を決めなければならないということであるという検討をしてまいりました。

選択の方法として、ひとつは今の日立ベースをリニューアルするという選択肢、それからいわゆる地方銀行で共用しているシステムに切り替える方法、それからりそなベースに切り替えるという3つの選択肢があるわけです。投資額的には180億円前後でほとんど差異がないということでした。結局システム更改がスムーズに行くためには、切り替えの支援体制がりそなグループから受けられることから、りそなベースにする方針を決定いたしました。

その結果として、グループ全体の共通システムになることから、いわゆる規模の経済のメリットが享受でき、更改後のオペレーションコストも30億円程度節減できるという中期的な投資効果も一番享受できるということで、りそなベースのシステムに切り替えるということにいたしました。

また、組織改正を行うと同時に、専務の佐藤が昨年実施したりそな銀行のシステム統合の責任者でありましたので、彼を中心にこれから作業の準備を進めるということです。本格的には来年の1月からシステム更改の作業に入り、ほぼ1年半で出来上がりますので、平成20年7月を目標に近畿大阪銀行のシステムの更改を進めたいということでありました。

ではなぜこの時点で決めたかといいますと、収益計画にシステム更改は非常に影響を及ぼすうえに、準備作業のスケジューリングを考え、方針を決定した次第であります。

【生体認証ICキャッシュカードの取扱開始について】

生体認証ICキャッシュカードの取扱いを10月10日から行います。生体認証のICキャッシュカードにつきましては、手指の静脈パターンが良いのか、手のひらがよいのかということで非常に悩んできたわけですが、最終的には手指の静脈認証を採用すると同時に、金融界で二つに分かれておりますので、手のひら静脈認証にも対応できる利便性の高いカードにしたということでもあります。

10月10日のスタートでありますので、提携等の検討はこれからさせていただきます。また、出来るだけ多くのお客様に保有をしていただきたいと思いますということで、来年の3月までは、個人のお客様を対象に、初回発行時の「ご利用手数料無料キャンペーン」を実施したいということでもあります。ただお客様はお申し出頂いた場合は指の認証をとるためにもう一度来ていただかなければならないという非常にお客さまにお手数をかける切り替えになるわけですが、お客さまのご理解を賜りつつ対応をさせていただきます。

【海外 I R 実施報告】

先週の日曜からこの日曜までの1週間アメリカに I R に行きまわりました。個別の投資家の皆さまには21社、それから日本企業の十数社によるカンファレンスで約60名の投資家の方にスピーチをさせていただきましたが、想定された質問ばかりで答えに窮するようなものはございませんでした。

一つは第一四半期の経営成績が大幅減益であったということでどうなるんだということに対しましては、第二四半期以降は順調であり、トップライン等については債券関係損益の影響で若干計画を下回る可能性が高いものの、ボトム利益については目標どおり達成できるし、年度計画には変更ないというお話をさせていただきました。

2番目に11月に新しい健全化計画を公表するポイントは差別化戦略の徹底と近畿大阪銀行の今後のあり方の方向性を示したいということでもあります。誤解がないように具体的に I P O やその時期とかを決めることは全くないわけで、合併の方向に行くのか、いわゆる外だしの方向にいくのかその方向性を健全化計画の中でお示しして、計画期間の中で検討していくわけです。一部新聞等で書かれているように I P O 等の方針を(11月に)発表する内容ではないということをお話させていただきました。

3番目に公的資金の返済につきましては8月に優先株630億円を発行いたしましたので、その後の計画はということで、当然マーケットの状況、あるいは様々な提案が来ているのでタイミングを見て第二弾、第三弾をしっかりと検討して行きたいという話をさせていただきました。

それから一番悩ましい質問は日銀の金利政策の変更による銀行経営への影響はということですが、私は3つの要素を考えてシミュレーションをしなければならないとっております。ひとつはまだ日本の銀行界は利ざやの縮小が止まっていないということで、ある程度貸出金利が下がっていくことを見込まなければならない。また二番目に実質16年ぶりの利上げ交渉ということでまだお客さまの反応を全面的に確認できていないということであり、あと1ヶ月ぐらいすればある程度結果が見えてくると思います。それから3番目に預金金利が先行して利上げになっているわけでありますので、このコスト等の影響を加味しなければならない。そういう意味では2007年3月期の収益についてはほとんどポジティブなメリットは享受できない。やはり2008年3月期以降のメリットをこれからどうシミュレーションしていくかが課題であるとコメントをさせていただきました。

それから投資家の皆さんからよく聞かれたのは、消費者金融の世界がどうなるのかということ、あるいはそなはどのような係わり合いがあるのかということをおもむきで聞かれました。ご承知のとおりわれわれは消費者金融とのアライアンス等しておりますので、クレディセゾン保証の「自分計画」という消費性のローンと A T M カードローンの二つのサービスの話をさせていただきました。

それから直近の経済指標等で若干の調整期に入った指標が出ているので日本の経済の先行きについてどうみているかという質問もほぼ共通にありました。

また、普通株式の売却等はどういう見込みであるかという質問がありましたので、これ

は新政権がスタートして新しい金融担当大臣がお決まりになってからお願いに行くテーマであるとお話をさせて頂きました。

私からの説明は以上です。

以 上